

元気の出る情報・交流誌

手をつなぐ

特集

今、あらためて
育成会に思いをめぐらす

今月の問題 | 日本版DBSの実施に向けて
ひびき | 小澤慎一郎 (吉本興業、元ピスタチオ)

2026

4月

No.842



CONTENTS

手をつなぐ

2026.4 [No.842]



表紙絵「こころのままに」

■ 舟山香葉(ふなやま・かな)

43歳

■ 山形県西置賜郡

■ 作者からのひとこと

「絵のタイトルは何?」「わからない!」「ただ、手が動くだけ」と言っています。「じゃ、心のままに描いているんだね」ということで、タイトルは『こころのままに』となりました。

できないんじゃない やらせていないだけ ~親が変われば子は必ず変わる~ [第7回]

最後の抱擁、そして歩き出す 石村和徳

02 わたしたちも言いたい

活動を若い世代につなぎたい 伊藤広也

05 視点いろいろ 気持ちいろいろ みんな、まる。[第7回]

これがほんとの平等!? 津島つしま

07

特集

今、あらためて 育成会に思いをめぐらす

育成会のはじまりをたどる

08 ・育成会のこと、もっと知ろう! 又村あおい

広がる想い~育成会のつながり~

10 ・それぞれの立場から見えた育成会

親・きょうだい・支援者の視点で語る〈オンライン座談会〉

当事者主体で進む 本人部会の取り組み事例

16 ・話し合いから生まれる、みやぎフレンズ会の輪 藤原志保

17 ・「私たちのことは、私たちで」長崎きずなの会の挑戦 竹内隆伯

受け継がれる想い~各地の育成会の歩みと現在~

18 ・「ひとりじゃない」と感じられる場所を 南 朋子・荒木千賀子

19 ・新居浜手をつなぐ育成会再生にあたって 藤田敏彦

届ける声、届く声

20 ・要望、していますか? 加藤みどり

22 ・育成会アンケート報告 声から見えた課題と可能性 『手をつなぐ』編集部

育成会のこれから

26 ・時代とともに変わる、育成会の役割

70年の歩みから、これからのを考える 佐々木桃子

29 今月のオススメ

30 ひびき

それぞれの「ふつう」を生きよう 小澤慎一郎

32 対話の潮騒~Z世代が思いめぐらす障害と福祉~ [第1回]

障害ってなんだろう? 障害者のリアルに迫るゼミ

34 今月の問題

日本版DBS(性犯罪歴等を確認する仕組み)の実施に向けて

38 あなたの街の育成会

各地の取り組みから学ぼう

40 暮らしを支える福祉の制度 [第61回]

成年後見制度について その7 ~望まれる制度のあり方2~ 又村あおい

42 中央の動き

令和8年度予算の概算要求が公表されました(2)

45 ニュースのじかん

うちの〇〇自慢! [第6回]

作品づくりを、社会へひらくプロジェクト 社会福祉法人安積愛育園

活動を若い世代につなぎたい

北茨城市手をつなぐ育成会
青年部 伊藤広也

私たちの会では、交流会を年に2回くらいおこなっています。

講師を呼んで勉強会をすることもあります。

勉強会のテーマは、

虐待防止のことや障害年金のことなどです。

学生ときには知らなかったことも多いです。

障害が重い人も軽い人も、

みんなで勉強していききたいと思っています。

私が会に入ってきたきっかけは、



親が親の会に入っていたことです。

高校を卒業した後に入りました。

そのときの会員は4〜5人でした。

今でも育成会を知らない人が多いので、

学校でも知らせてほしいです。

私は会に入ってからすぐに副会長になり、そのあと会長になって、

あわせて8年くらい続けました。

まとめるのがたいへんだったりしますが、助け合いながらやってきました。

今はあとつぎが1人か2人ほしいと思っています。

そして、私自身は全国を回って勉強してみたいです。



「わたしたちも言いたい」ではみなさまからのお便りを募集しています（宛先は48ページ）。
生活のこと、仕事のこと、暮らしのことなどふだん感じていることを書いてお送りください。



育成会は、どのような思いから始まり、何を大切に歩んできたのでしょうか。
歴史をたどりながら、その存在意義と原点をあらためて見つめます。
情報提供や学びの場づくり、本人活動の支援など、果たしてきた役割は
決して小さなものではありません。一方で、会員減少という課題も抱えています。
各地の実践を手がかりに、これからの育成会の姿をともに考えます。

イラストレーション 高村あゆみ

育成会のこと、もっと知ろう！

全国手をつなぐ育成会連合会 常務理事 又村あおい

中国の古いことわざに「飲水思源^{いんすいしげん}」があります。日本では「井戸の水を飲むときは、井戸を掘った人のことを忘れるな」などと訳されています。

知的・発達障害のある人や子ども（以下、知的障害者）の福祉、教育、就労や権利擁護は、以前と比べて大きく進展しています。その背景には先人のためまぬ努力と活動、そして仲間づくりがありました。我々は、育成会・親の会の先輩方が掘ってくださった「井戸の水」を飲んでいのです。

育成会活動の広がり

育成会活動は、昭和27（1952）年に東京で立ち上がってから73年の歴史を刻んでいます。驚くのは、そこからあつという間に全国へ育成会活動が広まっていったことです。たとえば、北海道手をつなぐ育成会は昭和30（1955）年の

創立ですが、現在であればさておき、当時は、インターネットはおろか固定電話すら満足に普及していません。おそらく、東京での育成会活動に接して感銘を受けた関係者が、北海道で会の立ち上げを働きかけたのだと思われます。その熱量には本当に頭が下がる思いです。

また、育成会の初期には、みなさまもよくご存知の糸賀一雄先生など、知的障害者の福祉、教育に関する第一人者たちが強力な援軍として活動を支えてくださいました。今でも、地域によっては社会福祉協議会や学校が育成会の事務局を担っているケースも珍しくありません。これも、先輩方の活動と仲間づくりが実を結んだ一例といえるでしょう。

育成会活動の成果

こうした育成会活動の広がりには、ひとえに知的障害者に当たり前の人生を送っ

てほしいという、親としては当然の願いが基盤にあります。人として尊重されながら、暮らし、学び、働き、楽しむ…。

多くの賛同者とともに、育成会が切り開いてきた法制度は数知れません。そのごく一部を表にまとめました。どれもこれも、今となつては当たり前のことばかりです。しかし、法制度化を目指して要望や陳情をしていた当時はどうだったでしょうか。知的障害者の権利を守り、当たり前の暮らしを実現したいという各地からの声が、全国組織の強みを生かして政治や行政を動かしたに違いありません。やはり、育成会73年の歴史を忘れてはならないのです。

育成会活動を未来に

他方で、大阪手をつなぐ育成会のアンケートによると、学齢の障害児を育てる保護者の中で、「育成会」を知っている人